

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1072800483
法人名	有限会社 アズマ
事業所名	グループホーム花水希
所在地	群馬県伊勢崎市八寸町4830-5 (電話) 0270-20-8088

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 5.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て(耐火建築) 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 1,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 1,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月15日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小暮内科クリニック 矢島歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは住宅に近いことや田畑があり季節ごとの農作業風景を見たり、散歩の時には挨拶や会話をする等で地域の方との交流を持ちやすい環境にある。ホーム敷地内は花壇や菜園があり花や野菜を育てる楽しみがある。親しみやすい家庭的な雰囲気の中で、管理者と職員は利用者と共に生活全般を自然の流れで、生活活動の買い物、食事作り、掃除、散歩、犬の餌やり等を行ないながら日々を過ごしている。手打ちうどんづくり、野菜を切る等の各自の役割で食事づくりに参加し、食事時には楽しい話題となっていた。利用者職員は散歩・花見に近隣者と一緒に行くことや、夏祭り、年末の餅つきなどを通じ、近隣者や地域との連携、交流を図っている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善項目を話し合い改善に取り組まれた。健康診断は家族の協力の下で受けられている。事故防止のため、ヒヤリハットを作成し活用している。感染症マニュアルは作成し、情報資料もファイルされている。職員は記録を閲覧しサインを必ず行うようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的を理解し、会議で評価項目の内容を話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催しており、事業所から利用者の状況やサービスの実施等を報告し、質問や意見、要望等を聞いている。参加者から「餅つきへの参加や子供との交流はどうか」などの意見を話し合っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議に家族に参加をしてもらい意見や要望を聴くようにしている。意見箱を設置しており、意見や苦情等は運営に反映をさせている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。近隣の人達とは散歩時に挨拶を交わす、町内の夏祭り、季節の花見に近隣者に行く、近隣者が立ち寄りお茶をする、回覧板を回しに行く、慰問がある時に呼びかけて一緒に楽しんでもらっている。また地域の人が手品を見せてくれる、年末の餅つきなども一緒に行なうなど積極的に利用者職員は地域との交流を図っている。また災害対策では近隣者の協力体制が得られ連絡網も作成されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えると地域との関係性を折り込み、事業所独自の運営理念を掲げてケア実践に取り組んできている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はカンファレンス等で理念に就いて話し合っており、全職員は共有し理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。近隣の人達とは散歩時に挨拶を交わす、町内の夏祭りや季節の花見に近隣者に行く、近隣者が立ち寄りお茶をする、回覧板を回しに行く、野菜等を届けてもらっている。慰問がある時に近隣者に呼びかけ一緒に楽しんでもらっている。また地域の人が手品を見せてくれる、年末の餅つきなども一緒に行い交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、会議で評価項目の内容を話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、事業所から利用者の状況やサービスの実施等を報告し、質問や意見、要望等を聞いている。参加者から餅つきへの参加や子供と交流はどうかなどの意見があり話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出かけて相談したり意見交換を行っている。気軽に利用者と一緒に行く時もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の支払いで家族が来訪する時には、写真を見てもらいながら日頃の様子を報告しており、また記録を見てもらったり電話等で報告を行っている。金銭管理も定期的に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には家族等に参加をもらい意見や要望を聴くようにしている。意見箱の設置しており、意見や苦情等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の固定化を図るようにしており、離職時には利用者とお別れ会等をしている。新入職者は日勤や夜勤を職員と共に支援にあたって、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は認知症介護実践研修、交換研修、カンファレンスについてなどの研修を交代で受講している。研修には希望も取り入れられている。研修後は職員間で報告しており、資料は閲覧できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、同業者と相談や情報交換等しながら交流している。交換研修を行い相互訪問等の活動を通じ、サービスの質を向上させていくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学をしてもらい雰囲気を見てもらいながら、よく話を聴き状況等の確認をしている。入居理由等は統一した内容で対応し、安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、日常の中で手打ちうどん、すいとん、餃子作りや日常の仕来り等を教えてもらうことが多くある。共に過ごし支えあい、お互いに感謝の言葉を交わしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でよく話を聴くことを重視しており、本人の思いや希望を把握するようにしている。家族等からも意向を聴くようにしている。その情報を職員間で共有しながら日々のケア実践に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から日々のかかわりの中での思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。担当者会議で話し合い、気づき、意見、要望を反映させ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて見直しをしているが、月1回のモニタリングはされていない。	○	安定しているような利用者の場合も、現時点の本人や家族の状況や意向を確認すると共に、職員の情報や気づき等を話し合い実情に即し対応していくためにも月1回のモニタリングを行っていきようにしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期以外の受診や個別の買い物、馴染みの理容店等の対応を柔軟にしている。また、入院した場合は面会に行くこと等もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、基本的には家族同行の受診となっているが、定期以外の受診は家族の状況に応じ柔軟に支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じてその都度、家族と話し合いを行っている。職員間では重度化した場合や終末期のあり方について、対応方針の統一と話し合いがなされていない。	○	事業所として重度化や終末期に向けた対応方針を定め、それを文章化し関係者全体で対応方針の統一を図り共有されていかれるとよいのではないかと。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように配慮しながら自然体で対応をしている。記録等の個人情報の取り扱いには留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその日、その時の本人の気持ちを尊重し、利用者のペースにそって見守りながら一緒に日常を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるように支援をしている。野菜の皮むき、切る、盛り付け、配膳、下膳、手打ちうどん等を職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、一人ひとりの希望を聴いて入浴ができるように支援をしている。入浴を拒む利用者に対して、言葉かけや対応の工夫をし入浴が気持ちよくできるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むき、切る、盛り付け、掃除、買い物、花に水をやる、草むしり、畑仕事、季節の花見、ドライブ、犬の世話、歌を唄う等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、玄関前で過ごすなど戸外に出て、外気に触れ季節を肌で感じ楽しめるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず利用者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。近隣者への協力依頼はしており、緊急連絡編成表も作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立には利用者の好みも取り入れている。食事や水分の摂取状況を職員は把握しているが、記録は利用者全員でなく摂取量が少ない時に取っている。	○	一人ひとりの一日の食事や水分摂取状況の記録を取り、職員は情報を共有しながら支援をしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花のプランターを置き、花壇の手入れや菜園では野菜づくりをしている。犬もいる。ホールにはソファ、家庭用テーブル、出窓には季節の花が置かれ、壁には書道展に出展の表彰状等が飾られ生活感や季節感が取り入れられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には寝具、テレビ、籐の椅子、ぬいぐるみ、家族との写真等が持ち込まれおり、本人が安心して過ごせる居室環境に配慮がされている。		